



NPO法人      
 野球医療サポート栃木

# 会報誌

第5号  
 (令和5年度)

特定非営利活動法人

## 野球医療サポート栃木

Medical Support for Baseball Players in TOCHIGI



**We want to support  
 baseball players' health and dream !!**

### 目次

1. 野球医療サポート栃木の活動から 神部 知重 先生 …… 2	5. 新型コロナウイルス流行より4年が経過して 齊藤 寿大 先生 …… 6
2. 2022年度のMSBP栃木の活動を振り返って 飯島 裕生 先生 …… 3	6. MSBP野球肘検診を再開して 小磯 勇太 先生 …… 7
3. 野球肘検診に参加して 古橋 佳史 先生 …… 4	7. 2022年度 栃木県広域野球検診の報告 飯島 裕生 先生 …… 8
4. 野球肘検診に参加して 椎名 太一 先生 …… 5	8. 編集後記 …… 9



## 野球医療サポート栃木の活動から

栃木県高等学校野球連盟 神部 知重

2023年1月27日、第95回記念選抜高等学校野球大会21世紀枠特別選考会での推薦理由説明会が毎日インテシオ会議室で実施された。私は関東・東京地区21世紀枠候補校、石橋高校のプレゼンテーションを行った。21世紀枠特別選考委員会に先立ち、全国9地区候補校の推薦理由が説明された。

今回、石橋高校は3回目の地区候補校となった。第89回、第93回大会に続いての関東・東京地区候補校であった。私は石橋高校・福田監督とプレゼンテーションの作戦を慎重に熟考した。石橋高校の推薦・選考基準の強みをどのように盛り込むかがポイントであった。

石橋高校の推薦理由は簡潔にいうと「文武両道や地域貢献・障害予防に取り組みながら、近年好成績を収めている。」である。他の候補校にない強みは「野球教室と障害予防で地域に貢献」であると考えた。私はポイントを整理しプレゼンテーションの読みの原稿を作成した。

2013年から地元の小学生向けに「石橋高校野球教室」を開いている。部員が野球を教えると同時に、地域の医師や理学療法士らとつくるNPO法人「野球医療サポート栃木 (MSBP栃木)」と協力し肩肘の検診を行っている。地域貢献と、次世代が長くプレーできる体づくり、野球人口の増加を図っている。

部員たちもMSBP栃木から肩や肘の検診を受けており、ケガの予防や早期発見、たとえケガをしても大ケガには至らせない。また、リハビリ体制の充実にも取り組んでいる。昨年12/19には第10回目の野球教室が開かれ、地元の下野市を中心に小学生120人が参加した。

21世紀枠特別選考委員会は議論の結果、石橋高校を3校目で「21世紀枠」に選出した。

理由はこのようなことであった。石橋高校は昨年度、学年の半数以上が国公立大学に合格した進学校ながら、近年は県大会準優勝や地区大会進出など好成績を収めている。毎年12月にMSBP栃木と協力して地域の小学生を対象に肩肘検診を兼ねた野球教室を開催するなど、地域貢献と障害予防、野球人口増加の一翼を担っている。「長く野球を続けてもらう」という狙いを持って障害予防に高い意識を持ち、先駆的な取り組みに繋げている点の評価が高かった。

今回の21世紀枠石橋高校選出は、MSBP栃木の活動と大いに関連したものであった。今後も全県あがての野球肘検診などの取り組みにより、栃木県から野球障害の予防や治療に役立つ情報を全国に発信し続けていきたいと思います。



## 2022年度のMSBP栃木の活動を振り返って

野球医療サポート栃木 理事長  
自治医大整形外科 飯島 裕生

2022年度は、コロナの収束に伴い3年振りに栃木県広域野球検診を行うことが出来ました。検診の舵をとって頂いた栃木県高校野球連盟の方々、検診にご参加頂いた先生方やリハビリスタッフの方々、検診会場をお貸し頂いた施設の方々など本当に多くの方に支えられて検診を無事に行うことが出来ました。この場を借りまして改めて御礼申し上げます。

また、お詫びとなりますが、野球医療サポート栃木の会報誌をこの2年発刊出来ておりませんでした。私の不徳の致すところで大変申し訳ありません。2020年度、2021年度はコロナ感染拡大の影響により栃木県広域野球検診は行えませんでした。MSBP栃木主催の「とちぎ野球障害研究会（第7回、第8回）」はリモートで行わせて頂き、多くの医療従事者の方々にご参加頂きました。2020年度は、東京スポーツ&整形外科クリニック理学療法士の鈴木智先生、2021年度は、コンディショニングサロンLocoBase代表、理学療法士の齊藤嵩先生にご講演頂きました。実力、実績のあるお二人のご講演は非常に勉強になりました。尚、2022年度は2023年3月9日に「第9回とちぎ野球障害研究会」を開催し、非常に多くのプロスポーツ選手を診られている股関節専門の宇都宮啓先生に投球障害と股関節機能に関するご講演を頂きました（東京スポーツ&整形外科クリニック）。股関節と肩関節の解剖学的な共通点から股関節におけるインナーマッスル（股関節安定性）の重要性など股関節機能、コンディショニングの話は新しい知見となりました。

一方で、3年振りに行いました栃木県広域野球検診ですが、県央地区（2022/12/4）、県南地区（12/11）、県北地区（12/18）の3回に分けて実施しました。コロナ感染対策のため、出来るだけ早くから担当者を中心に準備を開始しました。高校野球連盟の先生方のご協力の元で事前に会場を視察させて頂き、必要物品、会場レイアウト、動線の確認など入念に行いました。2022年度の検診では、合計して小学生525名、中学生360名の885名の選手を診ることが出来ました。上腕骨小頭OCDは15名（1.7%）であり、例年通りにその場で紹介状を渡して病院受診をお願いしました。検診で病院受診が必要な選手たちは責任をもってフォローさせて頂きたいと思っております。

2023年の日本の15歳未満の人口は1435万人と報告され、前年よりも30万人の減少となっています（総務省）。また公立中学校では2025年までに部活動の地域移行の改革が進められ、これまでの部活動のシステムは変わります。小中学生の野球選手は2007年の66万人から2020年は41万人となり、約25万人減っていると報告されています（全日本野球協会）。これからの時代はそれぞれのスポーツがその在り方を問われる時代になって来ていると感じます。高校野球をはじめ様々なカテゴリーでの野球をみていると日本人の野球熱には圧倒されるものがあります。日本の文化である野球を野球界が一丸となって今後も更に盛り上げて行ってほしいと思っております。私たち医療従事者に出来ることは限られてはいますが、成長期の野球選手が安心してプレーが出来ますように引き続き、ご協力出来ればと思っております。会報誌の表紙に「We want to support baseball players ' health and dream」と書かせて頂きました。MSBP栃木が選手たちの健康と夢に少しでも役立つ組織になればと感じています。今後も引き続きMSBP栃木を宜しくお願い致します。



## 野球肘検診に参加して

栃木県臨床整形外科医会 小野整形外科 古橋 佳史

コロナ禍が収束し、3年ぶりに開催された野球肘検診（県央地区）に参加させていただきました。今回は、栃木県野球協議会が主催する『第1回とちぎ野球フェスタ』の催しの一環としてカンセキスタジアムで昨年12月4日に実施されました。当日は天候にも恵まれ、各種のイベントにも沢山の来場者があり野球フェスタにふさわしい賑わいでした。会の運営もとてもスムーズで大成功だったと思います。

野球肘検診の目的の一つは、上腕骨小頭離断性骨軟骨炎（OCD）の早期発見だと思います。エコー検査を担当しましたが、検査は非侵襲的で、症状がなくても異常を示しますのでとても有用だと思います。自分はまだ未熟ですので、疑いのある球児を見つけ出しその場で大学病院の先生や専門医の先生にチェックしてもらえるのは自身の向上にもなります。また、会場では優秀な理学療法士の球児への指導も見ることができ、大変有意義な機会で、スポーツ医学に携われるのはとても嬉しく思います。

整形外科医としてスポーツ傷害（外傷と障害）を診る機会が多いのですが、自分はあまりスポーツは得意なほうではありませんでした。中学高校は文化部でした。地方の大学に入学後、当時は「医者は体力だ。運動部に入るべし」という校風だったので多くの新生は一度は運動部に所属した時代でした。先輩の甘い勧誘の言葉（夏でも涼しい湖で練習。試合は約4分で終わる。冬は湖が凍るので練習なし）でボート部に所属していました。マイナーなスポーツなので、競技人口も少なく国体にも出場しました。ある時、MSBP栃木前理事長の笹沼秀幸先生も大学時代はボート部だったことを伺い、とても親近感を抱きました。（最近では競艇のボートと区別するため、ローイングと言います。日本語では漕艇とも言います）

ところで、今年の第96回日本整形外科学会学術総会の特別企画で、TVでも有名な北村晴男弁護士（1956年生まれ 長野高校時代は野球部）の講演がありました。当時の監督は整形外科の医師だったそうで、午後は早めに診療を切り上げ学校に来て熱血指導をしていたそうです。「練習中に水を飲まない」「少しのケガですぐに病院に行かない」など当時としては当たり前だったかもしれませんが、北村弁護士は当時からとても疑問を持たれていました。人間としては尊敬できるが、医師としてはちょっと、と仰っていました。また大船渡高校の佐々木朗希投手が、「故障予防のため」という理由で監督から県大会の決勝戦の出場を外されたことにも触れていました。ご近所の桑田真澄投手と話をしたときには、桑田選手は拍手をしたそうです。それを「信じられない」と言った甲子園常連校の監督さんもいたそうですが、あそこで故障しなかったからこそ今の活躍があると力を込めていました。選手のスポーツ障害を起こさないこと、そして指導者の育成にも学会として力を入れてほしいと仰ってました。

改めて選手のスポーツ傷害予防の重要性を感じました。今年の検診にも是非参加させて頂きたいと思えます。検診に参加することは大変有意義だと感じています。宜しく願い致します。



## 野球肘検診に参加して

栃木県臨床整形外科医会 しいな整形外科クリニック 椎名 太一

私は中学生の時に野球部に所属していました。当時、肘が痛くなる「野球肘」と呼ばれるものがあることは部員からの伝え聞きでなんとなくは認識していましたが、その中に「離断性骨軟骨炎」や「上腕骨内側上顆裂離骨折」といった病態があることは全く知らず、無症状でもそういった病態が起り得ることなど知る由もありませんでした。一般的にスポーツ選手は、ひとたび怪我をするとパフォーマンスの低下を余儀なくされるケースも多いため、そのスポーツ毎に発生しやすい障害を事前に知っておくことはプレーの質を保つためにとても大切なポイントです。その観点から、エコー検診にて野球肘の早期発見を目的とした栃木県広域野球肘検診は「現役球児たちの肘を未然に守るため」だけでなく「病態の周知としての役割」も兼ねているため、とても大切な活動であると感じました。

実際にエコー検診に参加してみると、無症状で肘に離断性骨軟骨炎のある球児が毎年散見されます。離断性骨軟骨炎は、しばしば無症候性に進行するため、症状が出現する時期にはかなり進行してしまっているケースもあります。しかし重症化する前に早期発見できれば、その分だけ治癒までの期間短縮が期待できるので、検診で早期発見できた球児の今後の経過は今回の検診を境に大きく変わったことでしょう。みなさんご経験があると思いますが、怪我や疼痛のない状態でプレーできることの素晴らしさは、受傷したときに初めて痛感します。存分にプレーするために少しでも多くの球児が検診に参加できるよう促していければと考えています。

また、広域野球肘検診では理学療法士たちによるメディカルチェックもあり、一人一人の身体の様々な動きを測定・評価・指導をすることで、スポーツ障害が発生しにくいコンディション作りのためのサポートが行われています。自分が野球をしていた時代にはこういった機会がなかったため、指導を受けている現役の子たちの真剣な表情を見ると、とても素敵な経験になっているのだなと思いました。身体の使い方への理解が深まれば、運動能力の向上だけでなく様々な怪我の予防にもつながります。検診で得た経験が、明日からの活動へのヒントとなれば大変嬉しく思います。

今回、広域野球肘検診に参加させていただいたことで私自身も大変貴重な経験をすることができました。この経験を日常診療にも活かすことで、より多くの球児のサポートをしてみたいです。

今後も球児たちが少しでも安心して野球に専念できるよう広域野球肘検診へ積極的に協力させていただければ幸いです。



## 新型コロナウイルス流行より4年が経過して

JCHO うつのみや病院 整形外科 齊藤 寿大

2019年に新型コロナウイルス感染拡大に伴いこれまでの生活も一変してしまいましたが2023年5月8日より5類感染症に変更になり徐々に以前の生活に戻りつつあります。

流行当初は職場でのクラスターも経験し、新型コロナウイルス感染の診療にも携わり、先の見えない状況で日々不安を抱えながら過ごしておりました。日常生活にも大きな影響を与え、スポーツどころではなく、我々の野球医療サポート栃木（MSBP）の活動も2020年、2021年と休止せざるを得ない状態でありました。未だ感染は完全には無くなってはおりませんが徐々に明るい未来が見えて来た今日この頃です。

このような状況で2023年7月29日に行われた栃木県野球協議会が主催する「わくわくボールパーク in 清原球場」に親子で参加して参りました。飯島理事長に教えて頂いたのがきっかけであり、子供達に野球に触れ合ってもらい良い機会であると感じ参加を決意致しました。

MSBPの活動は一切なく、純粋に野球に親しむ・楽しむためのイベントであります。ティーボールやストラックアウト、ボール運びゲームなど12種類ほどのブースがありました。子供達は当初は緊張しており、ブースのイベントに参加するのに少し時間がかかりましたが景品に釣られてか徐々にやる気も出てきてほとんどのブースを体験することが出来ました。あっという間の2時間であり子供達も「楽しかった」と言ってくれ、1人の親として大変嬉しく良い思い出になりました。

今回参加対象者は3歳～小学校3年生までの200名でありました。定員もすぐに埋り、ユニフォームを着用した小学校低学年と思われる参加者も多数見かけ、野球競技人口が減少している昨今を感じさせない状況でありました。しかし現に甥っ子が所属する中学校の野球部では他校と合併しないと試合が出来ない状況にあり、また友人の小学生も各地区より集まったメンバーで練習しており、競技人口減少は身近に感じるものとなっております。

今回のような野球に親しめる環境作りが重要なことはもちろんですが、せっかく野球を始めた子供達が途中で怪我をして野球を断念せざるを得ない状況を回避するべく我々の行っている検診の重要性を再確認致しました。

子供達が長く野球を楽しめるように今後も検診活動を頑張って参りたいと思います。また検診活動も皆様の協力のもと成り立っておりますので引き続きお力添えの程よろしくお願い致します。



## MSBP野球肘検診を再開して

獨協医科大学病院 リハビリテーション科  
理学療法士 小磯 勇太

新型コロナウイルス感染症が流行し始め、子どもたちは学校生活や部活動、学童野球、友達と遊ぶことすら制限された時期が続きました。野球肘検診も密を回避することが難しく、しばらく中止を余儀なくされました。今回、たくさんの方々のご協力によって、3年ぶりに野球医療サポート栃木（以下MSBP）による野球肘検診を開催することができました。

野球肘検診の意義は、早期に怪我をしている子、また怪我のリスクを抱えている子を救うことにあります。コロナ禍で子供達はこのような機会に触れることはできませんでした。今回の検診でも怪我をしている子や、怪我の予備軍のような状態の子どもたちが散見されました。野球を始めてから数年間ではありますが、この検診活動も開催し続けることに意味があるのかなとも感じた次第です。

我々理学療法士は、身体の構造から正しい運動や、動作を指導することを得意としています。普段だと、病院やクリニックに通院しないと関わることは少ないかと思います。検診では医師とタッグを組み、身体所見を確認したり、運動の助言をさせていただいたりしました。子どもたちが自分の身体の測定値を友達と比較して一喜一憂し、刺激になっているのが見てわかりました。私自身の経験ですと、普段指導を受けているスタッフ以外の方とこのような機会に触れ合うことも、新鮮な体験になることを記憶しています。

各団体の試合では投球数制限が設けられ、また甲子園でもクーリングタイムを取り選手達を熱中症から守るはたらきが見られています。スポーツ界、野球界の常識は常に変化していっています。栃木県の肘検診活動の歴史もまだ浅いですが、時代の移り変わりに合わせてその年その年の状況に合わせて肘検診活動もよりよいものに変化していければいいなと考えております。

メジャーリーグでも日本人選手の活躍が日常的になっている時代にあります。ダイヤの原石の子どもたちを怪我で失うことのないように指導者・選手に関わる人たちが気をつけてあげる必要があると思います。また大好きな野球を長く続けさせてあげることに繋がると思います。

最後に、昨年度の検診は再開後初回であり、今後の検討事項がでてきました。これも開催しないとわからないことです。競技スタッフ、保護者の皆様からも要望があれば是非MSBPまでお問い合わせください。全力で向き合い、未来の球児達の成長に加担できるように我々も努力していきます。今年度はさらに皆様のお役に立てるようにスタッフ一同で検討して、よりよいものにしていきたいと思っております。

MSBPの活動に対しご理解ご協力を賜りまして、関係者の皆様には心から深く感謝申し上げます。野球医療サポート栃木（MSBP）の活動が、競技スタッフ、医療スタッフの両面から選手を支え、栃木県の野球界を発展の一助になればと思っております。

## 2022年度 栃木県広域野球検診の報告

野球医療サポート栃木 理事長 飯島 裕生

### 1) 2022年度野球検診の日程、参加人数

検診会場	①県央地区	②県南地区	③県北地区	合計
	2022/12/4	2022/12/11	2022/12/18	
	カンセキスタジアム	佐野日本大学短期大学	宇都宮共和大学(那須キャンパス)	
小学生	318	124	74	525
中学生	139	135	70	360
選手合計	457	259	144	885

### 2) 野球検診の内容

- ・事前アンケート
- ・肘理学所見
  - ：圧痛（内側上顆、腕頭関節、肘頭圧痛）、外反ストレステスト（30度、60度、90度）
  - 尺骨神経Tinel signの有無、肘過伸展時痛の有無、可動域制限の有無（肘伸展、肘屈曲）
- ・Laxity（弛緩性）の評価（母指が手関節屈曲で前腕に触れる）
- ・臥位上体そらし、立位体前屈
- ・足関節可動域 膝伸展（背屈、底屈）、膝90度屈曲（背屈、底屈）
- ・超超音波検査：肘離断性骨軟骨炎（OCD）の評価
- ・指導者向け障害予防講座（県北検診のみ実施）

### 3) 野球障害の頻度（小中学生対象、2016年－2022年）

	選手数	肘内側障害	肩障害	投球時しびれ
2016年度	1363名	16.3%	8.7%	10.4%
2017年度	1347名	6.3%	4.1%	7.6%
2018年度	1187名	7.3%	2.1%	7.7%
2019年度	1246名	10.2%	5.0%	7.2%
2022年度	885名	18.2%	8.2%	6.2%
		(小学生 20.3%) (中学生 15.8%)	(小学生 7.9%) (中学生 12%)	(小学生 4.1%) (中学生 8.6%)

※ 2020年度、2021年度はコロナ感染拡大により野球検診は中止しています。

### 4) 肘離断性骨軟骨炎（外側野球肘）の頻度（小中学生対象、2013年－2022年）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2022
選手数	465	470	806	1355	1347	1187	1246	885
OCD選手数	11	13	18	42	37	30	40	15
OCD(%)	<u>2.4</u>	<u>2.8</u>	<u>2.2</u>	<u>3.1</u>	<u>2.7</u>	<u>2.5</u>	<u>3.2</u>	<u>1.7</u>

## 野球医療サポート栃木 ホームページのご案内



☆野球医療サポート栃木のホームページも随時更新しております。  
是非ご覧ください。

### 編集後記

野球医療サポート栃木 理事長 飯島裕生

3年振りに野球医療サポート栃木の会報誌（第5号）を発刊させて頂くことが出来ました。2013年に前理事長の笹沼先生が当団体を立ち上げて、今年で11年目となります。多くの方々の支えにより、ここまで継続が出来ております。改めまして御礼申し上げます。また、急な原稿依頼に快く対応して頂いた執筆者の方々、本当にありがとうございます。お陰様で順調に会報誌を作成することが出来ました。

2023年3月にWBCで日本がアメリカを破り、世界一となったのは記憶に新しいところです。特に準決、決勝とドラマの様な展開で日本野球の素晴らしさを目の当りにしました。一朝一夕では成しえないこれまでの野球界の尽力が大谷選手をはじめ多くのスターを生んでいるのだと思います。また、夏の甲子園は慶応高校の優勝で幕を閉じ、高校野球の新たな可能性が示された印象を受けました。

個人的な話しとなり恐縮ですが、7月に友人にチケットをもらい、東京ドームで都市対抗野球を初めて観戦しましたが、球場の雰囲気と一体感に非常に感動しました。特に企業の応援団の熱量が高く、機会がありましたら是非とも観戦をお勧めします。さまざまなカテゴリーでの野球界の盛り上がりを変えて経験し、日本における野球というスポーツの奥の深さや社会への浸透度を実感しました。

最後となりますが、益々の野球界の発展と繁栄を心より願っております。引き続き野球医療サポート栃木へのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

発行・編集 NPO法人野球医療サポート栃木  
事務局：自治医科大学 整形外科学教室  
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1  
TEL：0285-58-7374

印刷 (株)松井ピ・テ・オ・印刷  
〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5-9-21  
TEL：028-662-2511(代)

かけがえない命の手助け…



SUNMEDIX

より良き健康と医療を目指して

## サンメディクス株式会社

本社 〒104-6136

東京都中央区晴海1-8-11 晴海トリトンスクエアY棟36階  
TEL 03-5144-0855(代) FAX 03-5144-0850

<input type="checkbox"/> 東京第一支店	〒179-0075	東京都練馬区高松6-35-15	TEL:03-5923-6235(代)	FAX:03-5393-3057
<input type="checkbox"/> 東京第二支店	〒130-0014	東京都墨田区亀沢4-17-12	TEL:03-5619-4551(代)	FAX:03-6859-0016
<input type="checkbox"/> 東京第三支店	〒168-0063	東京都杉並区和泉1-22-19	TEL:03-6680-0460(代)	FAX:03-6680-0538
<input type="checkbox"/> 多摩支店	〒187-0004	東京都小平市天神町1-9-27	TEL:042-348-5011(代)	FAX:042-348-5015
<input type="checkbox"/> 千葉支店	〒260-0032	千葉県千葉市中央区登戸1-26-1	TEL:043-244-6322(代)	FAX:043-244-6321
<input type="checkbox"/> 川崎支店	〒216-0005	神奈川県川崎市宮前区土橋1-21-5	TEL:044-870-6377(代)	FAX:044-866-3813
<input type="checkbox"/> 横浜支店	〒240-0005	神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134	TEL:045-348-7260(代)	FAX:045-348-7261
<input type="checkbox"/> 相模原支店	〒252-0334	神奈川県相模原市南区若松1-1-3	TEL:042-767-3771(代)	FAX:042-767-3773
<input type="checkbox"/> 厚木支店	〒243-0016	神奈川県厚木市田村町11-20	TEL:046-296-2822(代)	FAX:046-222-1563
<input type="checkbox"/> 宇都宮支店	〒320-0074	栃木県宇都宮市細谷町388-1	TEL:028-616-1580(代)	FAX:028-623-7350
<input type="checkbox"/> とちぎ支店	〒329-4404	栃木県栃木市大平町富田石川5100番3	TEL:0282-45-3701(代)	FAX:0282-44-0891
<input type="checkbox"/> 首都圏物流センター	〒144-0042	東京都大田区羽田旭町11-1 羽田クロノゲート内	TEL:03-5735-7111(代)	FAX:03-3743-8811

水戸営業所 029-305-6125(代)  
 筑波営業所 029-850-5185(代)  
 前橋営業所 027-280-4433(代)

埼玉営業所 048-640-6621(代)  
 埼玉西営業所 0493-21-7310(代)  
 山梨営業所 055-242-0301(代)

長野営業所 026-229-8030(代)  
 松本営業所 0263-24-1125(代)  
 名古屋営業所 052-218-2735(代)

URL : <https://www.sunmedix.co.jp>



# PEAK™

Power in Simplicity™  
Reproducible Results



【使用目的】 本製品は、遠心力を利用して血液中の多血小板血漿 (PRP) を分離することを目的とした医療機器です。

<https://dps.jkkpro.jp/>

販売元: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 デビューシネス事業本部 〒101-0065 東京都千代田区西神田 3 丁目 5 番 2 号 / 販売名: PRP システム • 承認番号: 23100BZ100005000 / ©J&J K.K. 2021 • 172084-210328

 **DePuy Synthes**  
THE ORTHOPAEDICS COMPANY OF Johnson & Johnson

